

2013 年度 第 2 回 鋼構造運営委員会 議事録

- 1 . 日時** 平成 25 年 7 月 22 日(月) 14 時 00 分 ~ 17 時 00 分
- 2 . 場所** 建築会館
- 3 . 出席者** 多田元英, 井戸田秀樹, 一戸康生, 岡本哲美, 越智健之, 河野昭彦,
(敬称略) 木村祥裕, 向野聡彦, 河野 守, 澤本佳和, 吹田啓一郎, 田川泰久,
竹内 徹, 玉井宏章, 寺田岳彦, 中込忠男, 中島正愛, 成原弘之,
西山 功, 藤澤一善, 藤田正則, 増田浩志, 緑川光正, 山田丈富,
宇佐美徹(記録)
欠席:笠井和彦

4 . 配付資料

- 02-01 2013 年度第 2 回鋼構造運営委員会議事予定(多田主査)
02-02 2013 年度第 1 回鋼構造運営委員会議事録(案)(宇佐美)
02-03
02-04
02-05 鋼構造接合小委員会 2013 年度第 1 回議事録(案)(増田委員)
02-06 2013 年度第 5 回鋼構造制振小委員会議事録(案)(緑川委員)
02-07 耐火設計小委員会報告(河野^守委員)
02-08 鋼構造環境小委員会 2013 年度第 1 回議事録(藤田委員)
02-09 第 19, 20 回鋼構造素材小委員会議事録(案)(山田委員)
02-10 2013 年度鋼構造塑性設計小委員会第 1 回議事録(案)(玉井委員)
02-11 2012 年度第 5 回東日本大震災鋼構造被害検討 WG 議事録(案)(緑川委員)
02-12
02-13 鋼管トラス構造設計施工指針・同解説(2002)について(越智委員)
02-14 資料 02-10 に統合(玉井委員)
02-15 2014 年鋼構造 PD 企画案(吹田委員), 資料 02-10(玉井委員)
02-16

5 . 議事内容

- (1) 資料 02-02 に基づき前回議事録の確認がなされた .
- (2) 資料 02-05~01-09, 02-11 に基づき、各担当委員より小委員会報告がなされた .
座屈小委員会(井戸田委員)
・ 「鋼構造物の座屈に関する諸問題講習会」を開催した . 講習会の参加者は、6/11
開催の東京は 253 名/定員 250 名 ,7/5 開催の名古屋は 135 名/定員 150 名であった .
(井戸田委員)
・ 700 部印刷して 688 部売れたため、300 部増刷した . (竹内委員)
接合小委員会(資料 02-05, 増田委員)

- ・ 名鋼構造柱脚 WG と梁端混用接合 WG を設置する申し出があり，承認された．
- ・ 鋼構造柱脚 WG の田村氏は会員外であるので，会員になってもらうよう依頼すること．(多田主査)

制振小委員会(資料 02-06，緑川委員)

- ・ 指針の鋼構造運営委員会査読は終了し，修正中である．(緑川委員)
- ・ 構造本委員会への査読は，8 月上旬では難しいができるだけ早く進める．(緑川委員)
- ・ 査読の対応状況は 8 月または 12 月の鋼構造運営委員会で報告する．(緑川委員)

耐火設計小委員会(資料 02-07，河野^守委員)

- ・ 特になし．

環境小委員会(資料 02-08，藤田委員)

- ・ 名称はガイドブックではなく，環境のキーワードが入った名称の設計指針としたい．(藤田委員)
- ・ まとまらない場合は啓発書でも良いが，解説書ではなく指針としたい．(藤田委員)
- ・ 「期限付き建築物設計指針」に対する学会内外から意見は，荷重の取り扱いが学会としての一貫性に欠ける点についてである．(藤田委員)

素材小委員会(資料 02-09，山田委員)

- ・ PD の主題について説明がなされた．資料は全 50p で 300 部印刷する．(山田委員)
- ・ 今回の統計データは今後の設計に影響するのか．(吹田委員)
- ・ 概ね以前と同様の結果であり，特に変える必要はない．(山田委員)

塑性設計小委員会(資料 02-10，玉井委員)

- ・ (4)で審議

東日本大震災鋼構造被害検討 WG(資料 02-11，緑川委員)

- ・ 原稿の出来高は 9 割程度で 2014.03 までに完成予定である(シェルは完成済み)．(緑川委員，竹内委員)

- (3) 資料 02-13 に基づき、越智委員より鋼管トラス構造設計施工指針・同解説(2002)について説明がなされ、重版と指針の今後の方向性について議論がなされた．

- ・ 今後 3-4 年は改定の予定がないので重版を伏見さんへ依頼する．(多田主査，越智委員)
- ・ IIW，ISO の最近の動向を踏まえ，数年後の改定に備え越智委員を中心に WG を設置し作業を進める．(多田主査)
- ・ 今後改定したい内容に関してはまとめておく．(越智委員)

- (4) 重点審議として、資料 02-14 に基づき玉井委員より塑性設計指針の改定内容について説明がなされた。

- ・ 他の指針と類似の内容が増えているが，鋼構造の指針類の中でどのような位置付けの指針と考えているか．(吹田委員)
- ・ 許容応力度設計，塑性設計，限界状態設計のそれぞれの体系の中で書き分ければ良いと思う．(多田主査)
- ・ 座屈設計指針は，いろいろな指針を横断的に解説している．(多田委員)

限界状態設計は設計者が意図する各限界状態に対し、部分安全係数の決め方と安全性の考え方の枠組みが整理されている。極端な話だが、設計耐力式は鋼構造設計規準や塑性設計指針にすべて集約した方が各指針の役割としてははっきりする。(井戸田委員)

- ・ 教科書的な内容に留まらず現業に役立つものとしたい。(玉井委員)
分かれていることは記述し、教科書的な部分も残してはどうか。(西山委員)
- ・ ダブルスタンダードは避けなければならない。仮に他の指針と変える内容がある場合は根拠を示した上で、将来的にどのように統一するか方針を示す必要がある。(吹田委員)
指針ごとの整合や今後の各指針の整理などを考えると、現状の設計式をもう少し尊重して新たな式の提案は十分吟味していただきたい。(井戸田委員)
- ・ 限界状態設計指針では弾性解析と塑性解析をどのように使い分けているのか(多田主査)
部材の塑性変形性能ごとに骨組をランク分けし、ランクに応じて塑性解析、弾性解析を使い分けるしくみになっている。(井戸田委員)

(5) 資料 02-15 に基づき、吹田委員と玉井委員より 2014 年度 PD の案について説明がなされた。

- ・ 「巨大海溝型地震・内陸地震への対応」については 2014 年に成果も出て、テーマとして旬であり、実務者として興味がある。(向野委員)
「塑性設計指針の改定」も今回がタイムリーである。(多田主査)
次回、8 月の委員会で投票により決定する。

6. その他

- ・ 今後の重点審議は次の通り。
 - ✓ 第 3 回運営委員会(8/29):なし
 - ✓ 第 4 回運営委員会(12/9):被害報告 WG, 接合小委員会(12 月の運営委員会は 13:00~17:00)
 - ✓ 第 5 回運営委員会(3 月末):座屈小委員会
- ・ 今後の運営委員会の日時、場所は以下の通り。
 - 第 3 回運営委員会 2013 年 8 月 29 日(木), 15:10 より会議・研修施設 ACU(北海道)で実施 <http://www.acu-h.jp/>
 - 第 4 回運営委員会 2013 年 12 月 9 日(月), 13:00 より建築会館で実施。